

目 次

巻 頭 言	武市 春男
イギリス会社法発展史論	武市 春男 (1)
更新投資循環と中期循環	望月 敬之 (32)
住宅ローンの計算	
——数表化と電卓の利用——	野沢孝之助 (54)
虎符の變遷と唐代の符節制度について	井口 大介(巻末)
一マーケティング学徒の行動理念をめぐる思惟と帰結	渡辺 好章 (70)
株式保有制限と証券市場	
——独禁法改正に関連して——	桑田 勇三 (86)
故赤松要先生の綜合弁証法と雁行形態発展論について	下条 英男 (104)
加工賃と賃金水準を形成する自由経済メカニズムの一事証	
——栃木地区機械金属工業実態調査に見られた「各業種 別加工高と賃金の動向」についての考察——	武田 実 (124)
事業部制における業績評価に関する一考察	平井 潔 (139)
リカードオの貨幣・金融理論	
——地金論争後期における見解を中心にして——	中西 充子 (150)
システムズ・アプローチの問題点	坂口 博 (164)
原価情報システム設計におけるコンピュータ・ プログラミングの諸問題	加藤 武信 (180)
紙幣減価論の擁護 (II)	井汲 明夫 (192)
クズネッツの経済成長理論	
——その設定と適用範囲に関する一試論——	坂本 新三 (204)

統一会計と国際会計基準の生成過程	保永 昌宏 (220)
1970年代の交通政策	
——自家用交通と公共交通の現状と今後の方向——	小渕 洋一 (237)
最適通貨圏と要素移動	浦上 博達 (251)
独立的監査機能の変化について	鈴木 豊 (262)
非重複オーディエンスの算出手法 (中)	
——サインスバリーおよびメザリングハム手法——	清水 公一 (278)
アンデス古代文明の諸問題	貞末 堯司 (292)
発見の哲学	
——パース研究(6)——	西勝 忠男 (307)
首都圏の都市成長前線帯におけるサービス業地域の形成	
——埼玉県坂戸町「きどうち」と「駅東通り」の比較——	田村 正夫 (318)
鉄齋と華山	小野 浩(巻末)
日本民主主義研究序論	森田 昌幸 (338)
遠近法と身体性	
——その哲学的意味——	山口 勲 (352)
Feminine Failure and the Modern Hero: Mad Women in Sylvia Plath's <i>The Bell Jar</i> and Joan Didion's <i>Play It As It Lays</i>	水田 宗子 (367)
『おらが春』の素材	黄色 瑞華(巻末)
日本におけるアンドレ・マルロー受容	
——1941年(昭16)まで——	堀田 郷弘 (390)
ジェイムズ・ジョイス研究	
——造形への意識——	茂呂 公一 (408)
作品とその批評	
—— <i>Robert Elsmere</i> と “Robert Elsmere”——	萩原 博子 (426)

司馬遷論	黒羽 英男(巻末)
三代日本主義の系譜について.....	松田 福松(巻末)
カウンセリングにおける行動療法と人格変容について ——特に不適応行動の催眠夢分析による要因発見と 催眠療法について——	佐藤 惣三 (442)

編集後記